

会議名	全国自立援助ホーム協議会あり方検討委員会（多機能化・高機能化グループ）第11回		
日時	2022年9月5日（月）10：00～11：30	場所	オンライン（zoom利用）
出席者 役割所属 ※敬称略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・串間範一（会長/ウイング・オブ・ハート）・前川礼彦（副会長/湘南つばさの家）</li> <li>・恒松大輔（事務局長/あすなろ荘）・川口充紀（制度政策：長/わだちの家）</li> <li>・内藤直人（調査研究：長/鳥取フレンド）・本間征二（研修：副/KCカルム）</li> <li>・熊澤百恵（広報：副/しおん）・万治貴史（事務局/カリヨンタやけ荘）</li> </ul>		
	8 / 名		
○協議内容			
⇒結論（助言や次回以降への課題も含）			
<p>1，あり方検討委員会報告書について</p> <p>○素案確認し、意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子化せずにデータにて、全国大会までに配布でいかがか。</li> <li>・ページ数が多く、削減必要か。</li> <li>・ゲストスピーカーの資料をどうするか。内容含めて掲載可否の確認が必要。</li> <li>・協議会 HP の会員専用ページに掲載してはどうか。</li> <li>・委員会の浸透度が低く、全国大会での配布が有効だと感じる。</li> <li>・冊子化しても良いのではないか。簡素なものでも良いので。</li> <li>・既存の報告書に必要なデータを差し込む形はどうか。</li> <li>・各回の報告書に添削を加え、ダイジェスト版を作製。</li> </ul> <p>⇒冊子化（ボリュームは要検討。ダイジェスト版。）＋データにて配布。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度一覧はいかがするか。</li> </ul> <p>⇒掲載内容の要検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相談所宛のアンケートも全国大会までに回収。</li> </ul>			
<p>2，自立援助ホームにおける高機能化とは</p> <p>○意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既実践していることで高機能化と言えるものがある。 ex 就労困難ケース、医療ケアが必要なケース、就学ケース。</li> <li>・制度的には自立援助ホームの役割（就労自立を目指す利用者の半自立の場）が変わったわけではない。</li> <li>・利用者のニーズの変容に合わせて、役割が増え、広がっている状況。</li> <li>・家族関係調整が必要なケースが増えている印象。</li> <li>・いかにして就労自立につなげるかを考えるのが、高機能化であるか。</li> </ul> <p>⇒就労支援にしても、具体的な実践を示すしくみがない。</p> <p>⇒実践事例集のようなものが必要か？他ホームの取組を知れる方法は整えられたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多機能化と高機能化は分離するのが難しい。</li> <li>・医療的なケア等は特に、専門職が担当した方が効果的。ある程度の専門性を持った人が、普遍的に支援を実施するには費用が必要。</li> <li>・多機能化は今できていない部分。最もできていない（弱い）部分は、市区町村との連携ではないか。こちらは費用面よりも法律や制度を変えていく必要がある。</li> <li>・標準が定まっていないと、高機能化の議論は難しい。</li> <li>・既にホームの実践が高機能化している印象。利用者の事情に合わせて、個々に対応が異なる。ホーム内で完結するものもあれば、社会資源とつながっているものもある。</li> <li>・本来備わっているべき機能が標準化グループでの議論。高機能化＝高品質化と捉えている。人材育成も必要であり、他ホームの実践を知る機会が有効かと考える。</li> <li>・職員はできる限りのことをする。それがそのホームの標準。</li> </ul>			

- ・職員だけではどうにもならないこと、実力以上のことを、他の関係機関や人材等、別の要素で成り立っていることが高機能化の一つの方向性か。
- ・児童心理治療施設、児童自立支援施設（国立）も高機能化した形の一つ。
- ・「標準」が定まっていないのが、高機能化の議論を複雑化させている要因か。
- ・以前は、自立する＝仕事をして、アパート自立をするのが主だった。「自立」という言葉の概念の整理も必要か。
- ・運営指針が基準の一つとはなる。就労は変わらずにあるだろうし、生活の部分を見直す中で、高機能化につながることもあるか。
- ・障がい有は半数以上。以前のデータと比較して、高機能化とは何かを考えるのも有効か。
- ・自分たちの専門性とは何か。仮説でも構わないので、何かしらの答えを持たれたい。
- ・現在の議論から、取り組みやすいこと、今後取り組むべきこと等が整理されていく。その過程を会員ホームがどのように捉え、反応していくか。同調や理解が進むような内容となるのが望ましい。挙げた疑問に対して、どう応えるかは課題となる。
- ・獲得した権利や制度が浸透していない現実もあり、工夫が必要。

次回	
----	--